

宝塚エネルギー2050ビジョン 概要版(案)

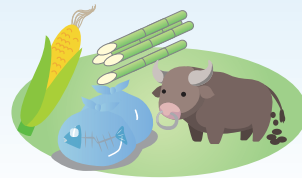
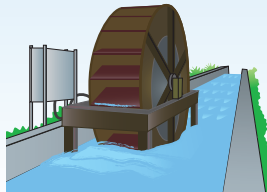
「みんなで作ろう 宝塚エネルギー」

～再生可能エネルギー・省エネルギーで たからづかをもっと ずっと げんきに～

再生可能エネルギーのビジョンを策定し、実践を進めていくと、
どのようなまちで暮らすことになるのでしょうか。

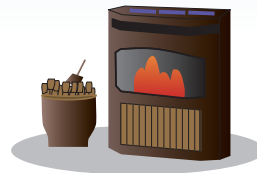
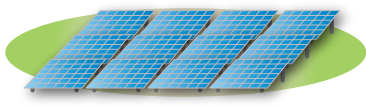
“宝塚エネルギー”のある暮らし(イメージ)

小水力発電による電
気を作っている地域
もあります。



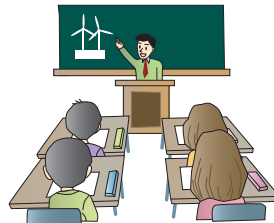
バイオマス事業は地
元の市民を中心に、
出資などの形で進め
られています。

活用されていない土
地では太陽光パネル
を設置しているところ
もあります。



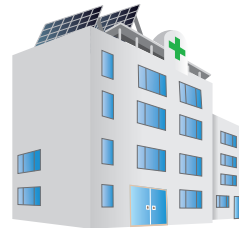
冬には木質ペレット
ストーブを暖房とし
て利用しています。

家庭では様々な再エ
ネの利用と電力の選
択が進んでいます。



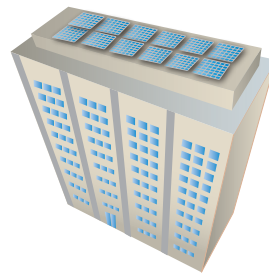
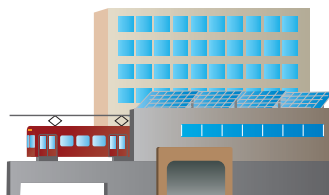
学校では環境やエネ
ルギーに関する教育
が行われています。

公園には再エネとふ
れあえる施設があ
ります。



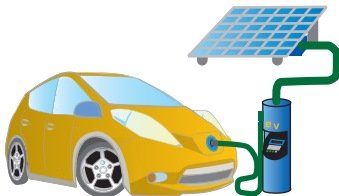
病院や福祉施設で使
用されているお湯は
太陽熱利用システム
で作られています。

駅には太陽光発電設
備がついています。



オフィスでは太陽光
発電設備が設置され
ています。

レンタカーなど、太
陽光で充電した電気
自動車を使う機会が
増えています。



バス停にも太陽光発
電設備がついていま
す。



エネルギーの
プロシューマー化って
何だろう…

様々な再生可能エネルギーがいろいろな所で利用され
ていて、“宝塚エネルギー”に参加する人がどんどん増えて、
宝塚のまちがもっと、ずっと、元気になるんだね。



市政マンガ広報キャラクター
「春野すみれ」

「たからづかキッズ」キャラクター
「春野すみれ」

(注:再生可能エネルギーは「再エネ」と表記)

目的と期間

市民生活を守るために地方公共団体が自ら目標や将来像を示し、継続的に施策や取組を進めます。

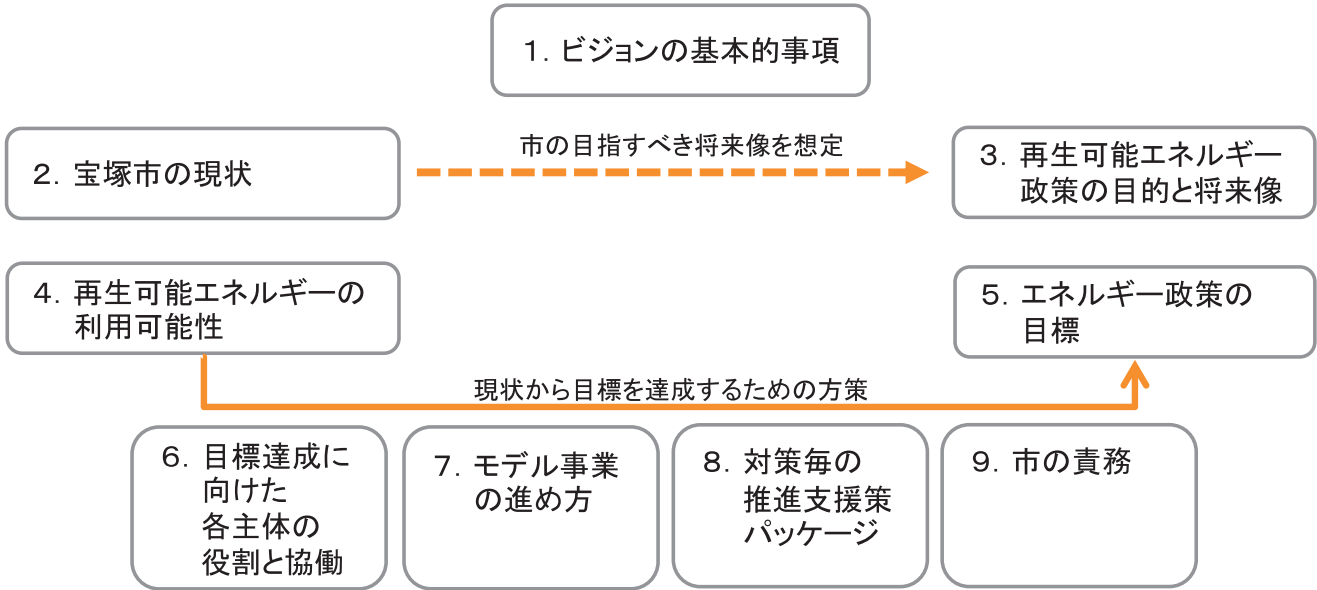
◎再エネ政策の目的
 豊かな環境の自律的な維持
 エネルギーの自立性を高める
 災害に強く、安全で安心な持続可能なまちづくり

◎期間
 長期目標の目標年度:2050年度
 ビジョンの対象期間:2014年度～2020年度

上位計画である環境基本計画の「2050年度に温室効果ガス排出量を半減(1990年度比)」を見据え、対象期間内に必要な見直しを行いながら、長期目標の達成を目指します。

ビジョンの構成

◎ビジョンの構成は第1章から第9章まで下図の構成とします。

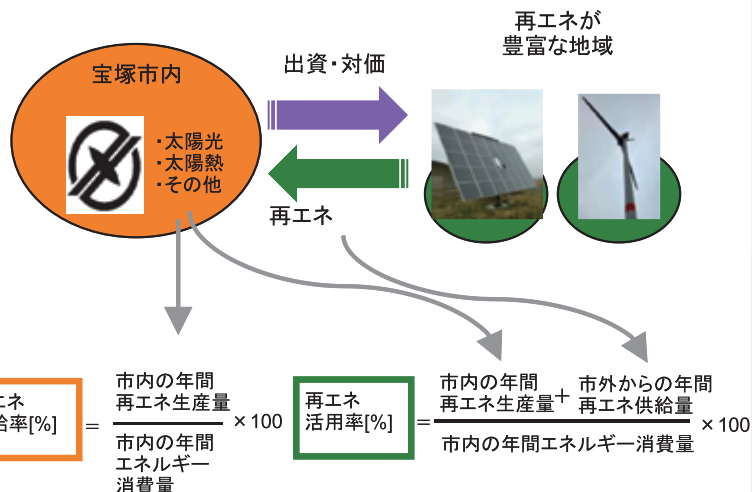


現状と考え方

◎2011年度の再エネ自給率、再エネ活用率(推計値)

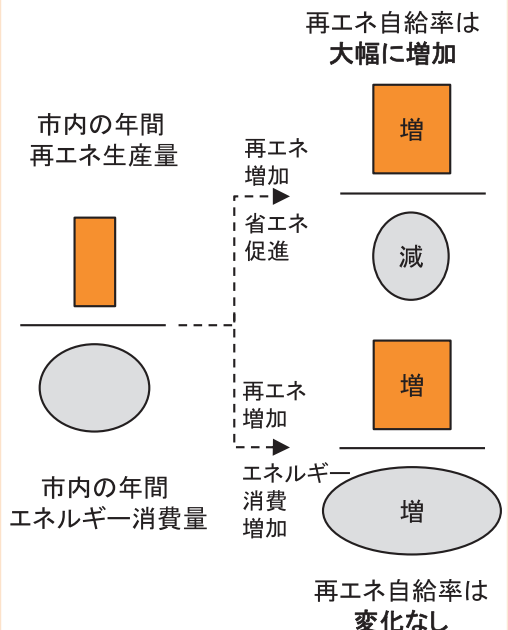
市内の家庭
 電気の再エネ自給率:1.2%、熱の再エネ自給率:0.6%
 市内の家庭・業務・産業
 電気の再エネ活用率:10.4%、熱の再エネ活用率:0.3%

◎再エネ自給率、再エネ活用率のイメージと計算式



◎省エネルギーの必要性

省エネルギーを進めることでエネルギー消費量が減り、再エネ自給率が向上します。



長期目標

目指すべき将来像を定め、そこから逆算して課題を抽出していくため、意欲的な目標を設定

◎エネルギー利用に関する目標

- ①2050年までに家庭用の電力及び熱利用
再エネ自給率**50%**、熱利用再エネ自給率 **50%**
(右図: **オレンジ**の部分)
- ②2050年までに家庭・業務・産業用の電力及び熱利用
再エネ活用率**100%**、熱利用再エネ活用率**100%**
(右図: **緑色**の部分)
- ③2050年までに多くの市民が交通分野の再エネを利用
(右図: **紫色**の部分)

	電力利用	熱利用
家庭	50%	50%
業務	100%活用	100%活用
産業		

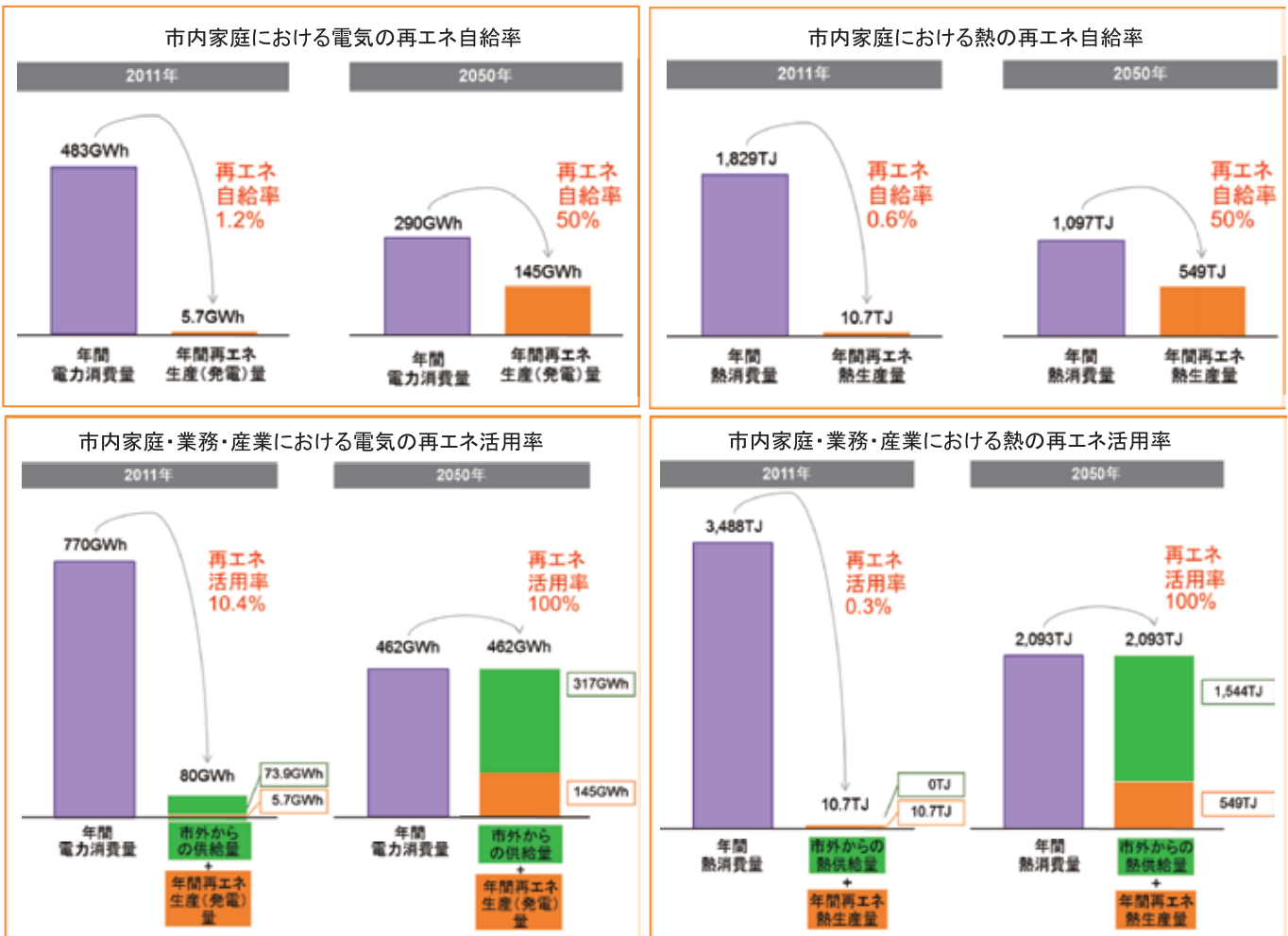
◎エネルギー利用以外の目標

- ①市民の100%エネルギープロシューマー化
- ②再エネを通じた災害に強いまちづくり
- ③再エネで雇用と経済を活性化

交通
多くの市民が再エネをエネルギー源とする様々な交通手段を利用できる状況とする。(例: 太陽光発電で充電した電気自動車タクシー)

目標達成に必要な再エネ

◎2011年度と目標達成年度の2050年度とを比較し、目標達成に必要な再エネ(電気・熱)の量を表します。(※2050年には、エネルギー消費量は40%削減される見込みとして計算)



GWh(ギガワットアワー) 時間当たりの電力量の単位であり、10の6乗kWh
TJ (テラジュール) 時間当たりのエネルギーの単位であり、10の12乗J

意欲的な目標値設定の必要性

- ①エネルギーは社会基盤であり、資源の枯渇や事故発生後の急激な転換が難しく、長期間の準備が必要である。
- ②市のあらゆる主体の連携による「がんばる目標」となり、再エネ利用の推進に取り組む主体の仲間づくりのツールとなる。
- ③目的達成のための手段の柔軟性を持たせることが可能となる。

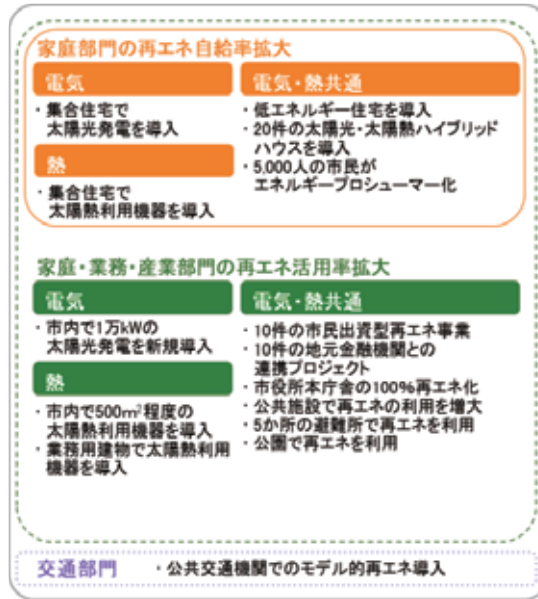
◎ビジョン対象期間での進捗状況を測る目安となるチャレンジ目標を設定

チャレンジ目標:

長期目標の各分野に対応する形で定めた、具体的かつ意欲的な目標

2020年に20個のチャレンジ目標(チャレンジ20目標)を、2030年に30個のチャレンジ目標(チャレンジ30目標)を定める。

※本編でチャレンジ30目標も掲載



人づくり・場づくり
情報提供・環境教育

- ・5,000人の市民が宝塚エネルギーに参加
- ・10団体のNPOが再エネ関連活動展開
- ・再エネ相談窓口の相談累計実績1,000件
- ・すべての図書館・学校図書室に環境エネルギー文庫を設置
- ・環境エネルギー教育のプログラムを作成・試行

エネルギープロシューマー
エネルギーの消費者であるとともに太陽光発電等での生産、再エネ事業の出資などを行う人を指し、「宝塚エネルギー」の重要な参加者です。

エネルギー事業者
エネルギーを市内で生産し、若しくは市内に供給する事業を営む者又はこれから営もうとする者をいいます。(電力会社、ガス会社、PPS(新電力)など)

地域エネルギー事業者
エネルギー事業者のうち、市民若しくは事業者が自ら実施し、又は主体的に関与し、再生可能エネルギーを供給する事業を営む者又はこれから営もうとする者をいいます。

◎6つのパッケージ

目標の実現に向けた施策や取組を分野ごとにまとめ、協働して進める。



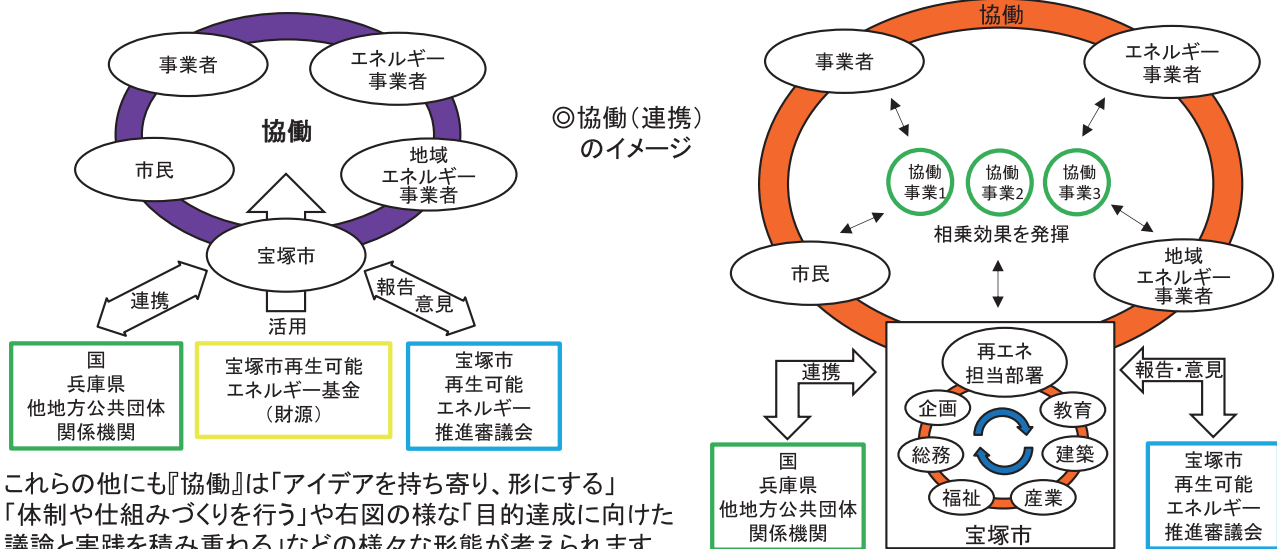
◎モデル事業の推進

長期目標及びチャレンジ目標実現に向けた施策や取組のうち、すぐに取りかかることができ、波及効果の高いと考えられる7つの取組をモデル事業として進める。

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| ①再エネ相談窓口の設置 | ⑤公共建築物における屋根貸しと税優遇の実施 |
| ②既築集合住宅への太陽光発電への導入支援 | ⑥公園などでの各種再エネの設置と見える化 |
| ③地元金融機関との連携による再エネ導入への支援 | ⑦移動展示による持続可能なエネルギー教育プログラムの実践 |
| ④公共交通機関の再エネ活用促進 | |

協働の進め方

◎再エネの利用の推進は個々に出来るものでも行政だけで進められるものでもなく、みんなが当事者として参加し、協働していくことが重要です。



これらの他にも『協働』は「アイデアを持ち寄り、形にする」「体制や仕組みづくりを行う」や右図の様な「目的達成に向けた議論と実践を積み重ねる」などの様々な形態が考えられます。